

クローズアップ

奈良県織物工業協同組合
理事長

笹田 昌孝 氏



が奈良県織物工業協同組合連合会の理事長を務めるに当たり、就任を打診されました。

良の繊維関連企業全体が増加でリフォーム需要も減少するなど、構造的な需要減に直面しています。

——織物工協組の現況は。

各社とも、需要減が続く中での生産関連のコスト上昇という厳しい状況が続いています。

組合企業の中では弊社も含め、自社製品を企画、製販する手段の模索が続いています。

現在、組合の5社がOEMを含め、ブランドを使う動きを進めています。

来年2月のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市「東京インターナショナル・ギフト・ショー」には「奈良の蚊帳織」ブランドでの出展を計画しています。

事業領域の拡大を

巾、ストールといった日用品まで幅広い用途

に向けた生地を生産している。新理事長に奈良の織物産地の現状と展望を聞いた。

◇

——就任について。

丸山欽也・前理事長（丸山繊維産業社長）

私の父も理事長を務めていた時期があり、心構えはありました。が、思っていた時期より早かったです。連合会理事長を織物工協組の企業が務めることも長らくなかったとのことで、改めて奈

良の局面にあります。最終製品を製販する企業、建材向けに粗目織物をB to Bで取り扱う企業ともに業況は厳しいようです。建材向けの主力となるふすま地も住宅の洋風化のほか、空き家の

導型のビジネスを確立することで、将来への道筋を付けられないかと考えています。もちろん既存のOEMも製造業にとって重要なビジネスです。各社ごとのバランスの見極めも重要になるとみ定着を急ぎます。

奈良県織物工業協同組合の理事長に笹田織物（奈良県田原本町）の笹田昌孝社長が就いた。蚊帳地など粗目織物を主力とする同産地では、組合加盟企業12社が、ふすま地などの産業資材用途から布